

2023年10月1日

安全データシート

ラサロシドナトリウム

1. 化学物質及び会社情報

化学物質の名称	ラサロシドナトリウム (Lasalosisid sodium salt)
供給者の会社名	コーキン化学株式会社
住所	大阪府東大阪市中石切町 3-7-49
電話番号	072-988-2300
FAX 番号	072-988-2506
電子メールアドレス	yakuji@kohkin.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	飼料添加物

2. 危険有害性の要約

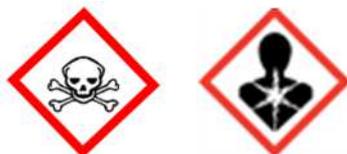
GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物 (追加項目)	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 3
	急性毒性 (経皮)	区分 4
	急性毒性 (吸入: ガス)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性 / 刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない

	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分に該当しない
	生殖毒性	区分 1B
	特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 2（神経系）
	特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 1（中枢神経系、心臓、血液系）
	誤えん有害性	分類できない
環境に関する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性 長期（万戦）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有毒
皮膚に接触すると有害
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
神経系の障害のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、心臓、血液系の障害

注意書き

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹸）で洗うこと。医師の診察／手当てを受けること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器は関係法令に基づき、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分

化学物質

化学名又は一般名

ラサロシドナトリウム (Lasalosid sodium salt)

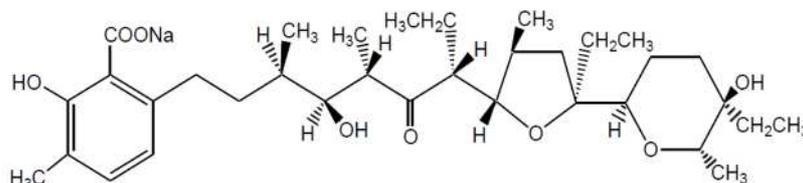
濃度又は濃度範囲

100 %

分子式 (分子量)

C₃₄H₅₃O₈Na (612.77)

化学特性 (示性式又は構造式)



CAS 番号

25999-20-6

官報公示整理番号

化審法： - 安衛法：8-(4)-697

化管法指定化学物質の選別

-

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水 / 石けん (鹼) で洗うこと。医師の診察 / 手当てを受けること。医師の診察 / 手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。直ちに医師の診察 / 手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別な注意事項

データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

火を飛散、拡大させるおそれがあるので、棒状放水は避けること。

火災時の特有の危険有害

火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある

性	る。
特有の消火方法	データなし
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）、プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取り扱い注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
接触回避	データなし
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。 容器を密閉して保管すること。
安全な容器包装材料	データなし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
保護具	
呼吸器用保護具	情報なし
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護衣を着用すること。

特別な注意事項 データなし

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

物理状态	固体（粉末）
色	白色～帯褐白色
臭い	特異な臭い
融点・凝固点	180 ～ 182
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解性	アセトン、エタノール、クロロホルム、酢酸エチル又はメタノールに溶けにくく、水にほとんど溶けない。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	ラットの LD ₅₀ : 122 mg/kg (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。このことより、区分 3 とした。
経皮	ウサギの LD ₅₀ : 1,400 mg/kg (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。このことより、区分 4 とした。

吸入	<p>吸入(ガス): GHSの定義における固体であり、ガイダンスでは分類対象外に相当し、区分に該当しない。</p> <p>吸入(蒸気): データ不足のため分類できない。</p> <p>吸入(粉じん): データ不足のため分類できない。</p>
皮膚腐食性 / 刺激性	<p>500 mg をウサギの皮膚に 4 時間閉塞適用した皮膚刺激性試験において、刺激性はみられなかった (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。このことより、区分に該当しないとした。</p>
眼に対する重篤な損傷 / 刺激性	<p>0.1mL (0.036 g) を適用したウサギを用いた眼刺激性試験において、適用 1 時間後から 7 日後まで軽度～中等度の結膜発赤がみられ、一部の動物には一過性の結膜浮腫及び角膜混濁がみられたが、14 日後には回復した (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。このことより、区分 2A とした。</p>
呼吸器感受性	<p>データ不足のため分類できない。</p>
皮膚感受性	<p>モルモットを用いた皮膚感受性試験 (マキシマイゼーション法、皮内感作 1%) において投与群及び対照群共に紅斑がみられたが、両群に差はなく、皮膚感受性を有しないと考えられた (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。このことより、区分に該当しないとした。</p>
生殖細胞変異原性	<p>細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の前進突然変異試験、不定期 DNA 合成試験、ヒト末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性の報告がある (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014)、EMEA Summary Report (2004))。このことより、区分に該当しないとした。</p>
発がん性	<p>(1)、(2) より区分に該当しないとした。</p> <p>(1) マウスに 2 年間混餌投与した発がん性試験では、投与による腫瘍発生頻度の増加は認められなかった (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。</p> <p>(2) ラットに交配前 1 週間、交配期間 2 週間並びに妊娠及び授乳期間を通じて混餌投与し、出産後 21 日に離乳させ、離乳児を選択して 130 週間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験では、腫瘍発生頻度は全ての群で同様であり発がん性はみられなかった (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。</p>
生殖毒性	<p>(1)、(2) のデータより、区分 1B とした。</p> <p>(1) ラットにラサロシドナトリウムを混餌投与した 3 世代生殖毒性試験において、母動物に影響がみられない用量で黄体数減少、着床数減少がみられ、母動物毒性 (体重増加抑制) がみられる用量で児動物の体重増加抑制、哺育期間中の生存率低下がみられた (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。</p> <p>(2) 雌ウサギの妊娠 6～28 日にラサロシドナトリウムを強制経口投与した発生毒性試験において、母動物毒性 (糞便減少、体重低下等) がみられる用量で、胚、胎児毒性 (初期胚死亡数増加、胎児体重減少、角膜混濁増加、上顎と頬骨の癒合、第 13 過剰肋骨及び骨盤肢帯の位置異常の発現頻度増加、骨化不全) がみられた (食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書 (2014))。</p>

<p>特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)</p>	<p>本物質は陽イオンチャンネルに対する影響により神経毒として作用することが報告されており、イヌでは投与回数や用量の記載はないが、神経系への影響として振戦、痙攣及び発作閾値の低下の報告がある(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))。ヒトでの単回暴露に関する報告はないが、安全性の観点から区分2(神経系)とした。</p>
<p>特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)</p>	<p>(1)、(2)より、区分1の範囲で心臓、血液系、(3)~(5)より、区分1の範囲で中枢神経系への影響がみられていることから、区分1(中枢神経系、心臓、血液系)とした。</p> <p>(1)ラットを用いた混餌投与による13週間反復投与毒性試験において、5 mg/kg/day(区分1の範囲)以上で体重低下、肝臓のヘモジデリン沈着、20 mg/kg/day(区分2の範囲)で多染性及び有棘赤血球並びに標的赤血球、ALP、ALT及びASTの上昇、心筋、下垂体前葉及び骨格筋の細胞の空胞化、腎臓のヘモジデリン沈着がみられた(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))。</p> <p>(2) 離乳ラットを用いた混餌投与による13週間反復投与毒性試験において、2 mg/kg/day(区分1の範囲)以上でヘマトクリット値低下及び好中球増加症、3 mg/kg/day(区分1の範囲)以上でヘモグロビン、標的赤血球、心臓の絶対及び相対重量の低下、腎臓及び肝臓におけるヘモジデリン沈着の増加、10 mg/kg/day(区分1の範囲)で体重増加抑制、ALP及びASTの上昇、肺の絶対及び相対重量の低下、腎臓の相対重量の増加、心筋細胞の空胞化がみられた(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))。</p> <p>(3) 雌雄ラットに混餌投与し生まれた児に親と同一の用量で離乳後から130週間混餌投与した試験において、35ppm(区分1)以上で神経学的所見(緩慢な握りあるいは緩慢な正向反射)、副腎重量増加がみられた(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))。</p> <p>(4) イヌを用いた13週間強制経口投与試験において、2mg/kg/day(区分1の範囲)以上で肝細胞の空胞化、10 mg/kg/day(区分1の範囲)で6例中4例に一過性の神経学的変化(後肢筋肉の衰弱、振戦、歩行異常)がみられ、このうち1例では食欲減衰、体重低下、ALP、AST、ALTの上昇を伴っていた(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))。</p> <p>(5) イヌを用いた2年間混餌投与試験において、180 ppm(区分1の範囲)で四肢の間欠性麻痺(10例中5例、24時間以内に回復)、ALP上昇(雌雄、6ヵ月以降)が認められた(食品安全委員会 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2014))</p>
<p>誤えん有害性</p>	<p>データがなく分類できない。</p>

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データがなく分類できない。
水生環境慢性有害性	データがなく分類できない。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし

土壤中の移動性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

国連番号 3462

国連品名 TOXINS, EXTRACTED FROM LIVING SOURCES, SOLID,N.O.S.

国連危険有害性クラス 6.1

海洋汚染物質 -

MARPOL73/78 附属書及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質 -

国内規則

海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 航空法の規定に従う。

陸上規制情報 毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。

特別な安全上の対策 移送時にイエローカードの保持が必要。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 151

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法 劇物（指定令第2条）（政令番号：102-3）
「ラサロシド、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤。ただし、ラサロシドとして2%以下を含有するものを除く。」

航空法 毒物類・毒物（施行規則第194条危険物告示別表第1）【国連番号】3462
トキシン類（固体）（生体から抽出されたもの）

船舶安全法 毒物類・毒物（危規則第3条危険物告示別表第1）【国連番号】3462
トキシン類（固体）（生体から抽出されたもの）

16. その他の情報

記載した情報は、現時点での知識に基づいていますが、すべての情報を網羅したものではありません。適応する現行の法令を厳守してください。取扱い時には常に注意を払ってください。この製品を、通常の目的以外で使用する場合には十分注意してください。記載した情報は、あくまで危険有害性物質を扱う者が作業を安全に遂行できるよう手助けするもので、保証するものではありません。

参考文献

- ・厚生労働省ホームページ；職場のあんぜんサイト、GHS 対応モデル SDS 情報「ラサロシド」(改訂日 2020 年 03 月 13 日)
- ・独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ：NITE 統合版 GHS 分類結果「ラサロシド」
- ・飼料添加物の成分規格及び評価基準収載書（第二版）(一般社団法人日本科学飼料協会、(平成 31 年 1 月)「ラサロシドナトリウム」)
- ・消防庁「危険物災害等情報支援システム」

他